

令和6年度

**青梅市放課後子ども教室推進事業
検証・評価報告書**

青梅市放課後子ども教室推進事業運営委員会

< 目 次 >

第1章 事業の結果

1 実施状況

- (1) 実施期間と回数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 事業内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) スタッフ数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2 学校区協議会の開催状況・・・・・・・・・・ 4

3 学童との連携実施状況・・・・・・・・・・ 4

第2章 児童・保護者およびスタッフを対象としたアンケート結果

1 概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

2 項目ごとの結果

- (1) 共通事項（参加登録児童）・・・・・・・・・・ 6
- (2) 保護者・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (3) 参加児童・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (4) スタッフ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

第3章 検証・評価の方法

1 検証・評価の方法及び視点・・・・・・・・・・ 21

2 検証・評価結果

(1) 実施状況について

- ア 期間と回数について・・・・・・・・・・ 21
- イ 事業内容について・・・・・・・・・・ 22
- ウ スタッフ数について・・・・・・・・・・ 22

(2) 学童との連携実施について・・・・・・・・・・ 23

(3) 学校区協議会について・・・・・・・・・・ 24

3 検証・評価の今後について・・・・・・・・・・ 25

参考資料

- ・ 青梅市放課後子ども教室推進事業運営員会設置要綱・・・・・・・・・・ 26
- ・ 運営委員会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- ・ 青梅市放課後子ども教室推進事業実施要綱・・・・・・・・・・・・・・ 29

第 1 章 事業の結果

1 実施状況

(1) 実施機関と回数

実施校	実施期間	実施回数
第一小	4 月 1 1 日～3 月 6 日	4 6 回
第二小	4 月 1 0 日～2 月 1 9 日	4 3 回
第三小	4 月 1 7 日～2 月 2 6 日	2 2 回
第四小	4 月 1 2 日～3 月 1 4 日	9 5 回
第五小	4 月 1 0 日～3 月 2 1 日	1 2 2 回
第六小	4 月 2 4 日～2 月 2 6 日	2 3 回
第七小	4 月 1 5 日～3 月 1 9 日	1 0 5 回
成木小	4 月 1 1 日～3 月 5 日	4 2 回
河辺小	4 月 2 4 日～2 月 1 9 日	2 4 回
新町小	4 月 1 7 日～3 月 1 9 日	3 2 回
霞台小	4 月 2 4 日～3 月 7 日	1 0 1 回
友田小	5 月 8 日～2 月 2 6 日	3 4 回
今井小	4 月 1 0 日～3 月 1 9 日	3 5 回
若草小	4 月 2 4 日～2 月 2 6 日	2 2 回
藤橋小	4 月 1 0 日～3 月 1 2 日	5 1 回
吹上小	4 月 1 0 日～3 月 1 9 日	5 5 回

(2) 事業内容

実施校	主な活動場所名称	主な活動内容
第一小	校庭・体育館	鬼ごっこ・バドミントン・ ドッジボール・工作・宿題
第二小	校庭・体育館・ 体育館 2 階	ドッジボール・バドミントン・ 鬼ごっこ・工作・宿題
第三小	校庭・体育館	バドミントン・縄跳び・ バレーボール・工作・宿題

実施校	主な活動場所名称	主な活動内容
第四小	ランチルーム・ 体育館・校庭	サッカー・遊具遊び・縄跳び・ 工作・ボードゲーム・宿題
第五小	教室・校庭・中庭・ 体育館・合科室	サッカー・ドッジボール・ 鬼ごっこ・工作・絵・宿題
第六小	体育館・校庭	バドミントン・鬼ごっこ・ 卓球・工作・宿題
第七小	教室・体育館・校庭	ドッジボール・ボール遊び・ 野球・けん玉・宿題
成木小	体育館・校庭・図書室	サッカー・鬼ごっこ・お絵かき・ カードゲーム・宿題
河辺小	体育館・校庭	バスケットボール・縄跳び・ 工作・お絵かき・宿題
新町小	体育館・校庭	ボール遊び・縄跳び・工作・ 折り紙・カードゲーム・宿題
霞台小	教室・体育館・校庭	バドミントン・ボール遊び・ 工作・折り紙・宿題
友田小	体育館・校庭	ドッジボール・卓球・ぬり絵・ 折り紙・工作・オセロ・宿題
今井小	体育館・校庭	ボール遊び・バドミントン・ 卓球・ぬり絵・工作・宿題

実施校	主な活動場所名称	主な活動内容
若草小	体育館	ドッジボール・卓球・写し絵・ 工作・ボードゲーム・宿題
藤橋小	体育館・校庭	バドミントン・ドッジボール・ バスケットボール・工作・宿題
吹上小	体育館・校庭	ドッジボール・バドミントン・ ぬり絵・工作・ゲーム・宿題

(3) スタッフ数

実施校	コーディネーター		教育活動推進員		教育活動サポーター		開催時 スタッフ 数
	配置数	開催時	配置数	開催時	配置数	開催時	
第一小	1	0	2	2	10	4	6
第二小	1	0	2	2	6	5	7
第三小	1	0	2	2	6	4	6
第四小	1	0	2	2	14	5	7
第五小	1	0	2	2	13	5	7
第六小	1	0	2	2	2	2	4
第七小	1	0	2	2	8	4	6
成木小	1	0	2	2	7	2	4
河辺小	1	0	2	2	5	5	7
新町小	1	0	2	2	9	6	8
霞台小	1	0	2	2	9	4	6
友田小	1	0	2	2	8	5	7
今井小	1	0	2	2	8	5	7
若草小	1	0	2	2	7	5	7
藤橋小	1	0	2	2	5	5	7
吹上小	1	0	2	2	10	4	6

2 学校区協議会開催状況

実施校	開催回数	実施校	開催回数
第一小	0 回	河辺小	6 回
第二小	2 回	新町小	1 回
第三小	5 回	霞台小	1 回
第四小	9 回	友田小	1 回
第五小	5 回	今井小	5 回
第六小	5 回	若草小	3 回
第七小	3 回	藤橋小	1 1 回
成木小	5 回	吹上小	0 回

3 学童との連携実施状況

(1) 期間と回数

実施校	実施期間	実施回数
第一小	実施なし	0 回
第二小	6 月 5 日から 2 月 1 9 日	1 7 回
第三小	1 1 月 2 0 日から 2 月 1 2 日	5 回
第四小	5 月 8 日から 2 月 2 6 日	1 6 回
第五小	4 月 1 7 日から 3 月 1 9 日	2 9 回
第六小	4 月 2 4 日から 2 月 2 6 日	2 2 回
第七小	4 月 1 7 日から 3 月 5 日	3 9 回
成木小	5 月 1 5 日から 2 月 2 6 日	2 0 回
河辺小	6 月 1 2 日から 1 月 2 2 日	6 回
新町小	1 1 月 2 0 日から 1 2 月 4 日	3 回
霞台小	1 1 月 2 7 日から 2 月 3 日	4 回
友田小	1 月 1 5 日	1 回
今井小	4 月 1 0 日から 2 月 1 2 日	1 4 回
若草小	5 月 1 5 日から 2 月 5 日	7 回
藤橋小	6 月 1 2 日から 2 月 1 2 日	1 6 回
吹上小	6 月 1 2 日から 1 0 月 9 日	4 回

※ 第一小については、実施を計画するも学童と都合が合わず中止。

(2) 内容

工作、ドッジボール、バドミントン、バスケットボール、
ボードゲーム、カードゲーム、季節のイベント 等

第2章 児童・保護者およびスタッフを対象としたアンケート結果

1 概要

(1) 実施時期

令和6年8月～9月（追加実施11月）

(2) 対象者

事業に参加登録している児童とその保護者および各事業に従事しているスタッフ

(3) 回収状況

・児童・保護者

対象人数 1,805名

平均参加者数 468名

回答者数 290名

・スタッフ

対象人数 151名

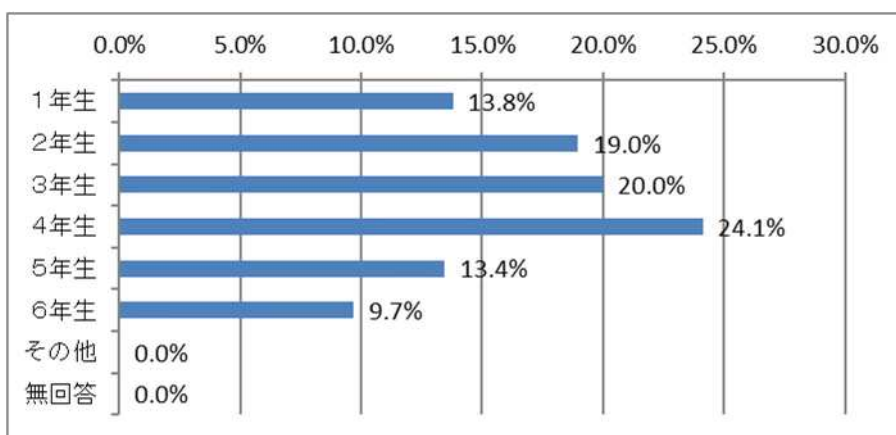
回答者数 123名

2 項目ごとの結果

(1) 共通事項（参加登録児童）

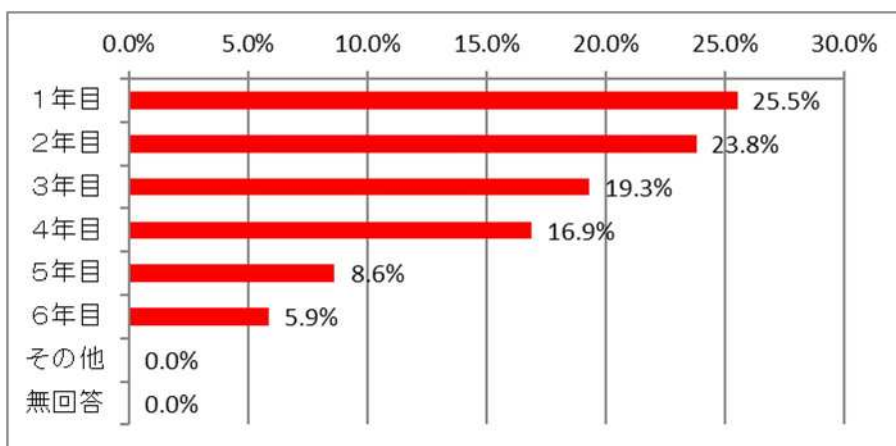
ア 学年

1. 学年を教えてください。	回答数	割合	対令和3年度 増減割合
1年生	40	13.8%	-1.1%
2年生	55	19.0%	1.5%
3年生	58	20.0%	1.5%
4年生	70	24.1%	3.3%
5年生	39	13.4%	-2.7%
6年生	28	9.7%	-2.1%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	-0.4%
計	290	100.0%	



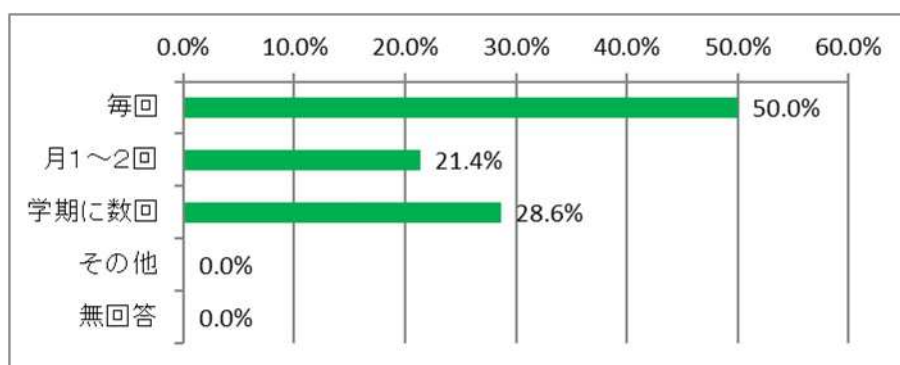
イ 登録年数

2. タヤケランドに登録して何年目ですか。	回答数	割合	対令和3年度増減割合
1年目	74	25.5%	-0.3%
2年目	69	23.8%	-1.5%
3年目	56	19.3%	1.7%
4年目	49	16.9%	3.7%
5年目	25	8.6%	-1.0%
6年目	17	5.9%	0.1%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	-2.7%
計	290	100.0%	



ウ 参加頻度

3. 参加頻度はどれくらいですか？	回答数	割合	対令和3年度 増減割合
毎回	145	50.0%	-2.4%
週1回 ⇒ R06「毎回」に合体(週1開催校多数のため)			
月1～2回	62	21.4%	9.9%
学期に数回	83	28.6%	2.2%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	-9.7%
計	290	100.0%	

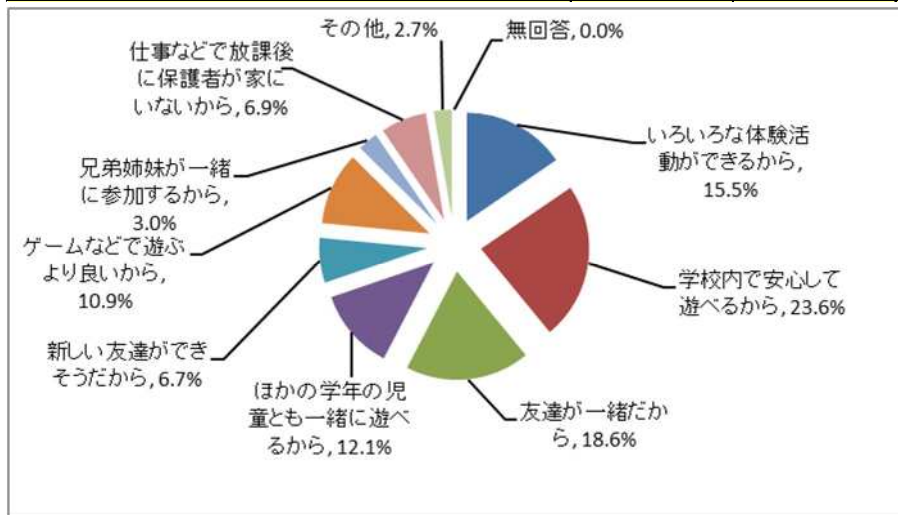


(2) 保護者

ア 参加理由

1. タヤケランドに参加させている理由は
なんですか?(複数回答可)

	回答数	延べ回答数に 対する割合(A)	回答者数 (n=290) に対する割合(B)	対令和3年度 増減割合(B)
いろいろな体験活動ができるから	149	15.5%	51.4%	0.6%
学校内で安心して遊べるから	227	23.6%	78.3%	1.0%
友達と一緒にだから	179	18.6%	61.7%	10.3%
ほかの学年の児童とも一緒に遊べるから	117	12.1%	40.3%	12.5%
新しい友達ができそうだから	65	6.7%	22.4%	1.9%
ゲームなどで遊ぶより良いから	105	10.9%	36.2%	-6.2%
兄弟姉妹と一緒に参加するから	29	3.0%	10.0%	-5.8%
仕事などで放課後に保護者が家にいないから	66	6.9%	22.8%	-1.5%
その他	26	2.7%	9.0%	3.5%
無回答	0	0.0%	0.0%	-0.7%
計	963	100.0%		



【その他の回答 (自由記述)】

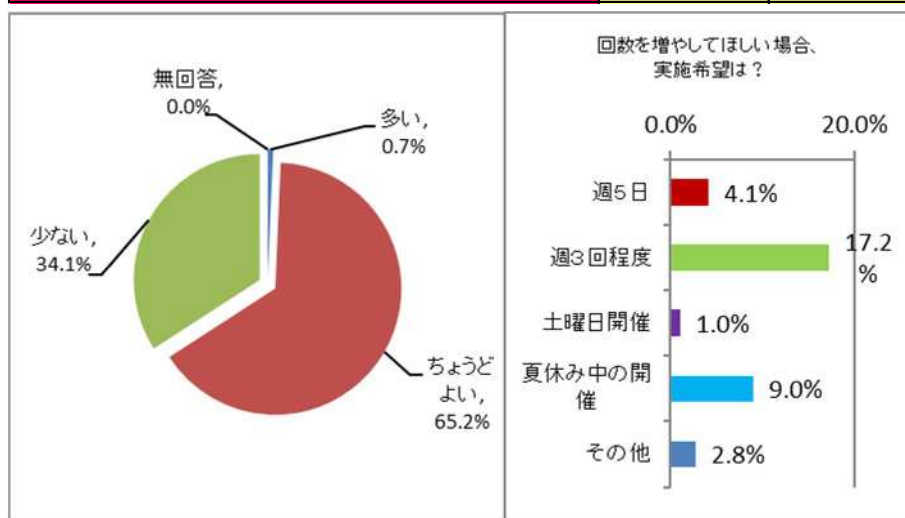
- ・ 地域柄、下校後同級生と遊ぶことが出来ないから
- ・ 宿題を終わらせられることができるから
- ・ 保護者が家で仕事をするときがあるから

イ 実施回数

2. 実施回数についてどう思いますか。	回答数	割合	対令和3年度増減割合
多い	2	0.7%	0.3%
ちょうどよい	189	65.2%	4.5%
少ない	99	34.1%	0.5%
無回答	0	0.0%	-5.3%
計	290	100.0%	

回数を増やしてほしい場合、実施希望は？

週5日	12	4.1%	-1.8%
週3回程度	50	17.2%	-4.8%
土曜日開催	3	1.0%	-3.8%
夏休み中の開催	26	9.0%	-13.1%
その他	8	2.8%	2.8%



【その他の回答（自由記述）】

- ・週2回程度を希望
- ・保護者会等の学校行事の際にあると助かる

ウ タやけランドに参加させてよかったと思うこと、お子さんが変わった事（自由記述）

- ・他学年や違うクラスの知り合いが増え、ルールや子どもたち同士の関わりを学ぶことができる。
- ・友達と沢山遊べて楽しく放課後の時間を過ごすことができている。
- ・自分で図画工作したもので遊ぶことで、得られる楽しさや上手に作製できた時の喜びを、実際に感じている。
- ・宿題をきちんとやるようになった。
- ・大勢で遊ぶ球技など身体を動かした遊びができ、活発になった。

- ・ 昔の遊びなど、家でできない遊びを経験することができる。
- ・ 大人の目がある遊び場であるので、安心して参加させられる。
- ・ 大人の方、ボランティアの高校生など色々な人たちと関われるのも良いと思う。
- ・ 自分のペースで遊べるのが心地よいらしく、楽しく参加している。
- ・ 下校後家の近所で友だちと遊ぶことが難しいため、放課後学校で遊ばせてもらえるのは子どもも楽しそう。

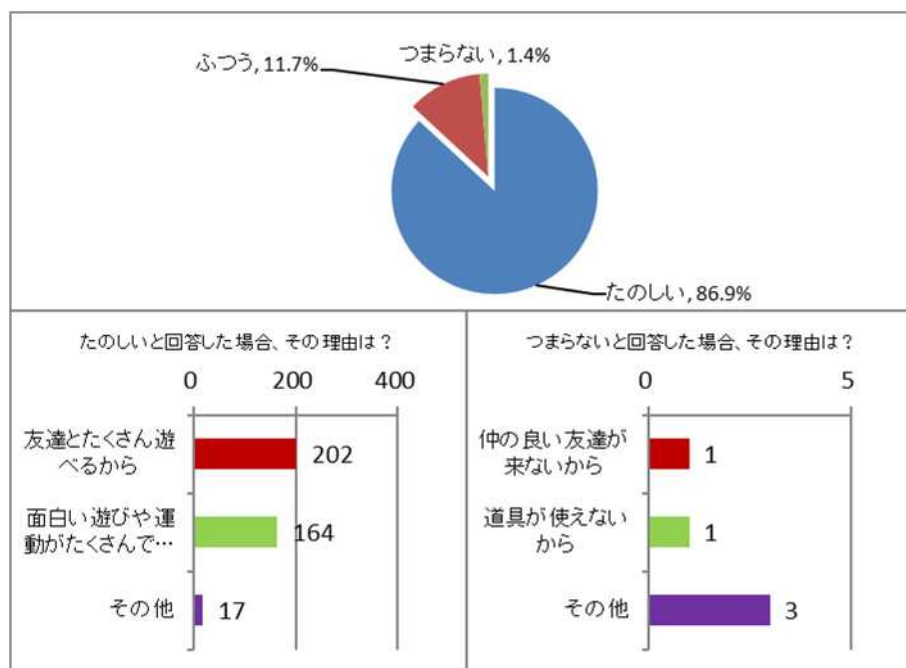
エ 事業に対する意見等

- ・ いつもあたたかく見守って頂き感謝している。
- ・ フルタイムで働いていないので（午前中～13時）学童に入れることができず、夕やけランドに参加できる水曜日はすごく助かる。
- ・ 夏休みも夕やけランドのような利用できる場所があったらすごく助かる。
- ・ もう少し実施日を増やしてほしい。
- ・ 学童になじめない子の居場所があれば、とても助かる。
- ・ ご年配の方も一緒に遊んでくれて、近くに祖父母が居ない児童は嬉しいと思う。
- ・ 大人の方にみて頂けてる環境で遊べるので安心して行かせられる。
- ・ 怪我など多いためもう少し見守りを強化して欲しい。
- ・ システムの費用は保護者負担でも構わないので、入退出管理システムを導入してほしい。

(3) 参加児童

ア 事業は楽しいか

3. タヤケランドは楽しいですか？	回答数	割合	対令和3年度 増減割合
とても楽しい ⇒ R06「たのしい」に合体			6.7%
たのしい	252	86.9%	
ふつう	34	11.7%	-3.9%
つまらない	4	1.4%	-0.6%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	-2.2%
計	290	100.0%	
たのしいと回答した場合、その理由は？			
友達とたくさん遊べるから	202	69.7%	
面白い遊びや運動がたくさんできるから	164	56.6%	
その他	17	5.9%	
つまらないと回答した場合、その理由は？			
仲の良い友達が来ないから	1	0.3%	
道具が使えないから	1	0.3%	
その他	3	1.0%	



イ その理由（自由記述）

（ア）楽しい

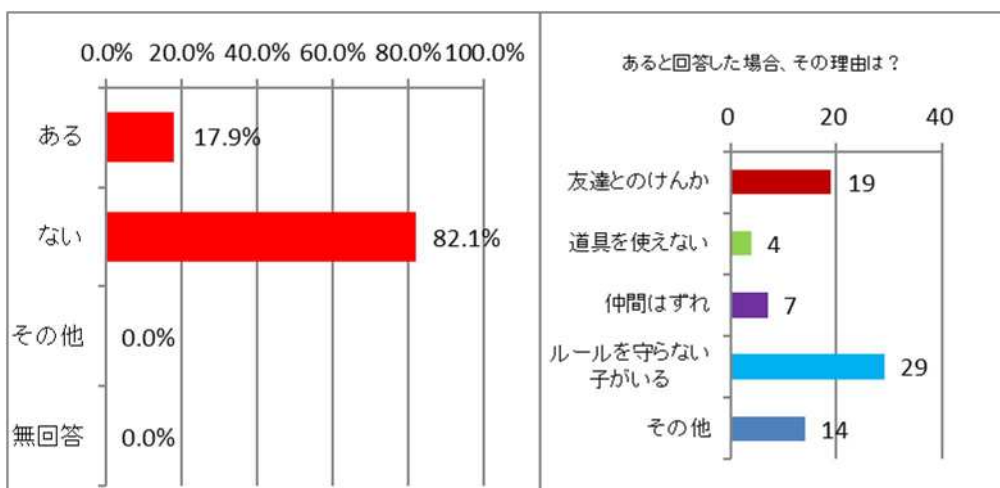
- ・ いろいろな工作ができるから。
- ・ 自由に遊べるから。
- ・ 宿題をすることができるから。
- ・ 大人と遊べるから。
- ・ 新しい友達ができるかもしれないから。

（イ）つまらない

- ・ 同級生がいらないから。
- ・ 早く帰れる時は家でゆっくりしたいから。
- ・ 学年が違くと遊び方が違うため、自由に遊べないから。

ウ 嫌な思いをしたことがあるか

4. タヤケランドで嫌な思いをしたことがありますか？	回答数	割合	対令和3年度増減割合
ある	52	17.9%	9.3%
ない	238	82.1%	-7.0%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	-2.3%
計	290	100.0%	
あると回答した場合、その理由は？			
友達とのけんか	19	6.6%	
道具を使えない	4	1.4%	
仲間はずれ	7	2.4%	
ルールを守らない子がいる	29	10.0%	
その他	14	4.8%	

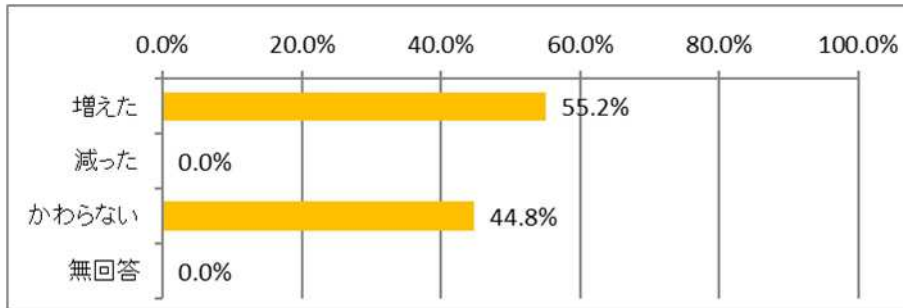


エ その内容（自由記述）

- ・他学年の子に嫌なことを言われた。
- ・人によって言葉遣いのあらい子がいて嫌だ。
- ・上の学年の子に追っかけられて怖い思いをした。
- ・遊んでいて嫌な呼ばれ方をされた。

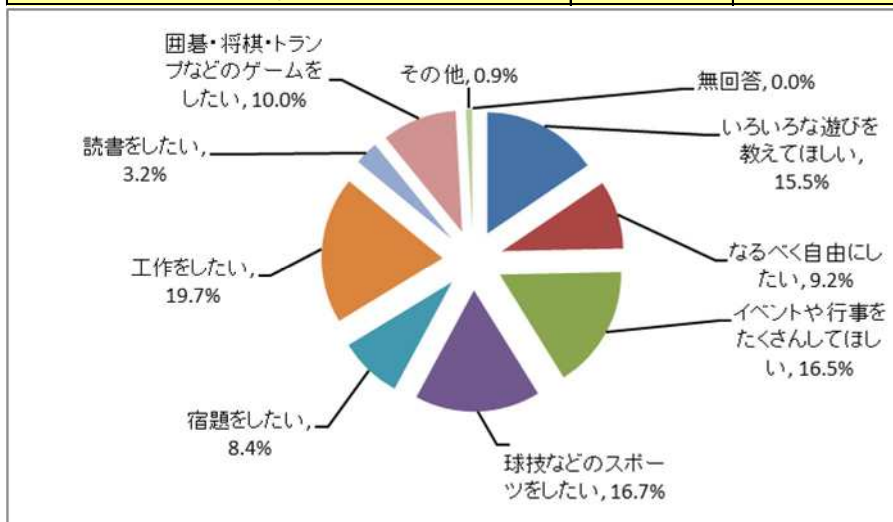
オ 友達が増えたか

5. タヤケランドで友だちは増えましたか？	回答数	割合	対令和3年度増減割合
増えた	160	55.2%	13.1%
減った	0	0.0%	-0.2%
かわらない	130	44.8%	-10.4%
無回答	0	0.0%	-2.5%
計	290	100.0%	



カ 今後どんなことをしたいですか

6. タやけランドで今後どんなことをしたいですか？ (複数回答可)	回答数	延べ回答数に 対する割合(A)	回答者数 (n=290) に対する割合(B)	対令和3年度 増減割合(B)
いろいろな遊びを教えてほしい	127	15.5%	43.8%	7.0%
なるべく自由にしたい	75	9.2%	25.9%	-12.1%
イベントや行事をたくさんしてほしい	135	16.5%	46.6%	5.6%
球技などのスポーツをしたい	137	16.7%	47.2%	20.0%
宿題をしたい	69	8.4%	23.8%	7.5%
工作をしたい	161	19.7%	55.5%	6.3%
読書をしたい	26	3.2%	9.0%	-6.3%
囲碁・将棋・トランプなどのゲームをしたい	82	10.0%	28.3%	-4.0%
その他	7	0.9%	2.4%	-3.8%
無回答	0	0.0%	0.0%	-4.2%
計	819	100.0%		



※「宿題をしたい」は R03 の「勉強を教えてほしい」から変更。

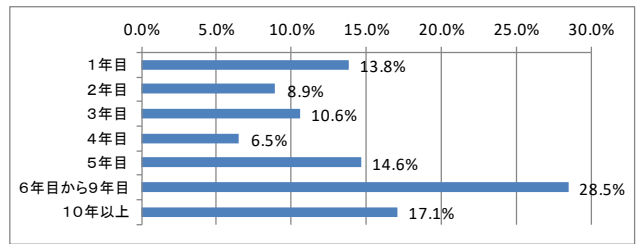
【その他の回答（自由記述）】

- ・学童の子と、もっと一緒に遊びたい。
- ・みんなのできる遊びをしたい。

(4) スタッフ

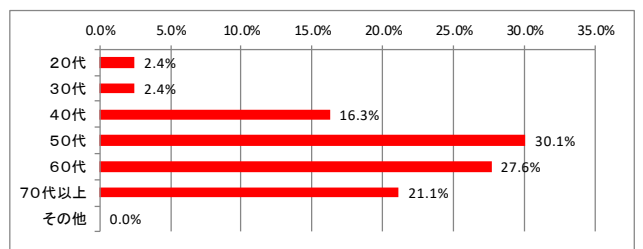
ア スタッフに登録して何年目か

1. スタッフに登録して何年目か	回答数	割合(%)
1年目	17	13.8%
2年目	11	8.9%
3年目	13	10.6%
4年目	8	6.5%
5年目	18	14.6%
6年目から9年目	35	28.5%
10年以上	21	17.1%
計	123	100.0%



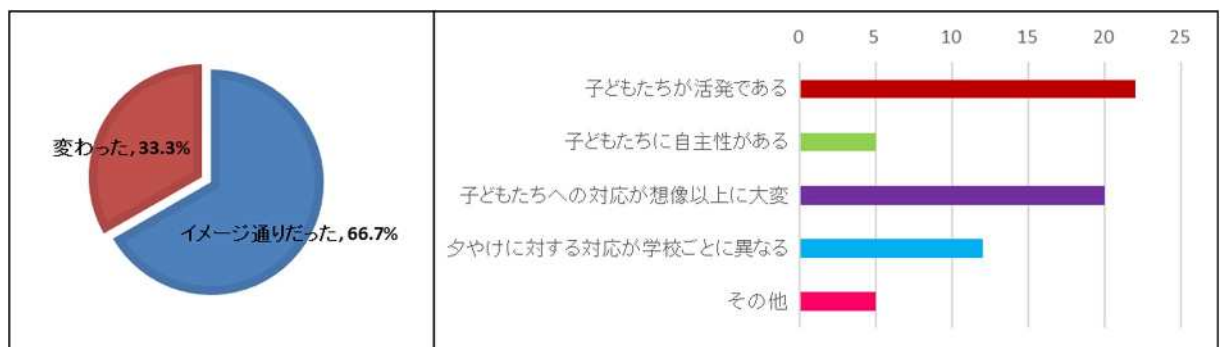
イ 年代は

2. 年代は	回答数	割合(%)
20代	3	2.4%
30代	3	2.4%
40代	20	16.3%
50代	37	30.1%
60代	34	27.6%
70代以上	26	21.1%
その他	0	0.0%
計	123	100.0%



ウ スタッフを始める前と、始めた後でタヤケランドのイメージは変わったか

3. スタッフを始める前後でタヤケランドのイメージは変わったか?	回答数	割合(%)
イメージ通りだった	82	66.7%
変わった	41	33.3%
計	123	100.0%
どのようなイメージの違いか? (複数回答あり)	回答数	
子どもたちが活発である	22	
子どもたちに自主性がある	5	
子どもたちへの対応が想像以上に大変	20	
タヤケに対する対応が学校ごとに異なる	12	
その他	5	

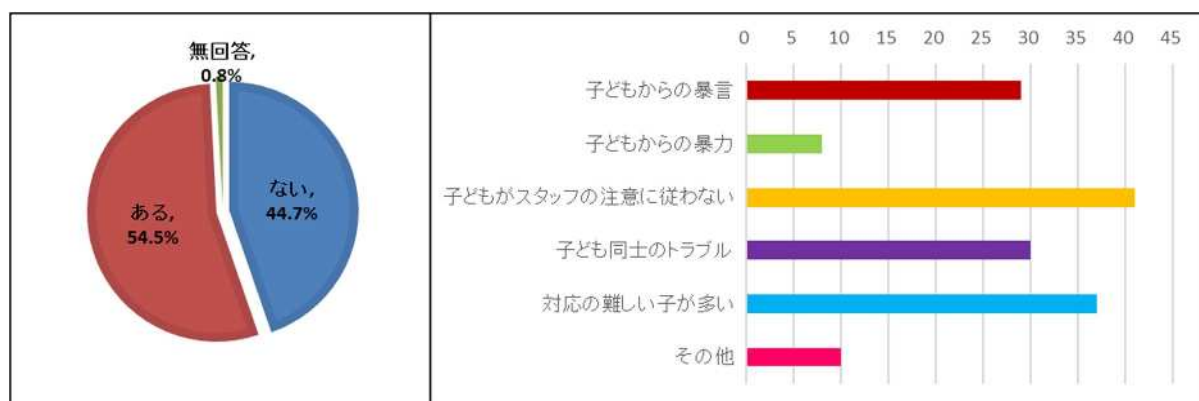


エ どのような違いがあったか（自由記述）

- ・幅広い年齢層の方が関わっていることがわかった。
- ・子供は昔も今も変わらず純粹なんだなと感じた。
- ・昔はなかった「やってはいけない」ルールがびっくりするほど
沢山あり驚いた。
- ・利用する子ども達の人数が多かった。

オ 子どもたちと接していて、驚いたことや、嫌な思いをしたことがあるか

4. 子ども達と接していて、驚いたこと、嫌な思いをしたことはありますか？	回答数	割合(%)
ない	55	44.7%
ある	67	54.5%
無回答	1	0.8%
計	123	100.0%
どんなことか？（複数回答あり）	回答数	
子どもからの暴言	29	
子どもからの暴力	8	
子どもがスタッフの注意に従わない	41	
子ども同士のトラブル	30	
対応の難しい子が多い	37	
その他	10	

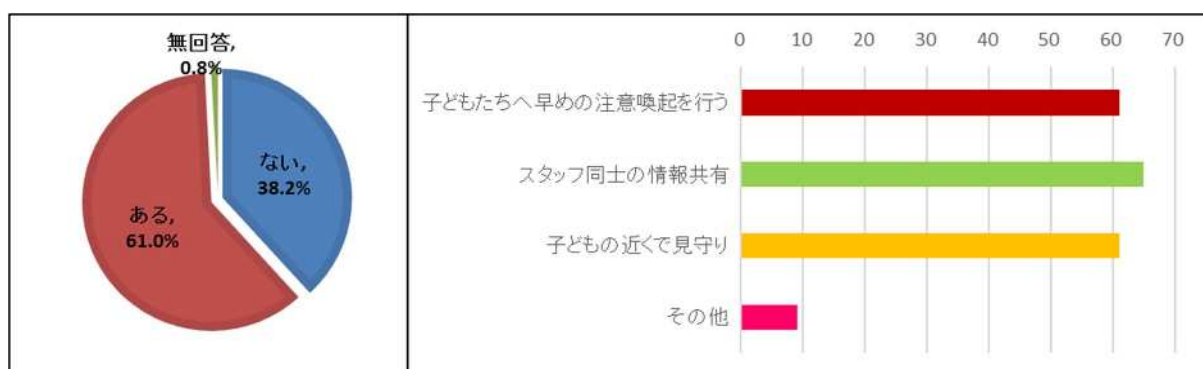


カ それはどのようなことか（自由記述）

- ・言葉遣いが悪い子どもが多い。
- ・トイレがうまく出来ない子が多い。
- ・工作のときなどの、発想の豊かさ。
- ・家庭での言葉の暴力などがあることや、学校で他の保護者からの行動や言葉で傷ついている子どもがいること。

キ 活動中に事故などの危険を感じたことはあるか

5. 活動中に事故などの危険を感じたことはありますか？	回答数	割合(%)
ない	47	38.2%
ある	75	61.0%
無回答	1	0.8%
計	123	100.0%
再発防止について(複数回答あり)	回答数	
子どもたちへ早めの注意喚起を行う	61	
スタッフ同士の情報共有	65	
子どもの近くで見守り	61	
その他	9	



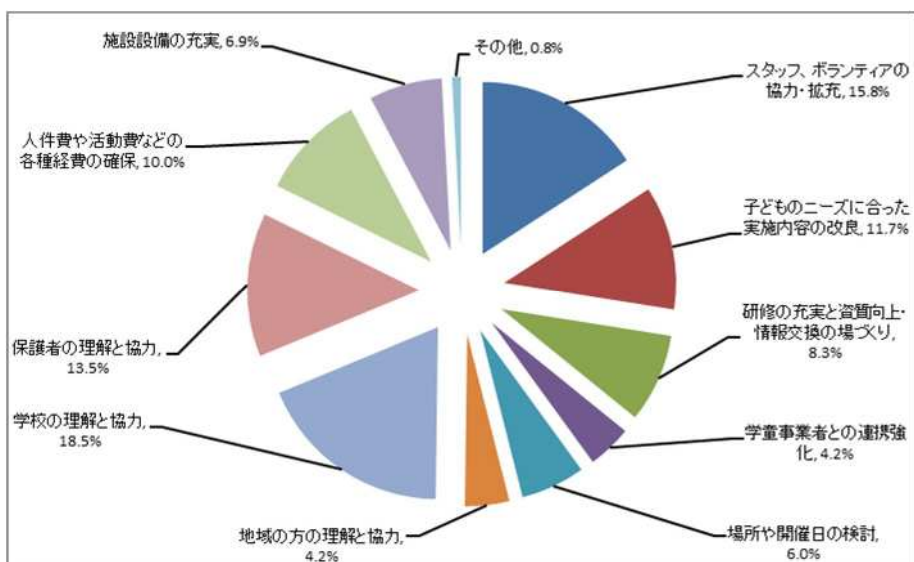
ク 再発防止に向けて心がけていることは(自由記述)

- ・可能な限り、ダメだけではなく、なぜダメなのかを具体的に説明する。
- ・スタッフと話し合い対策をした。
- ・常に児童の近くにいるのも大切だが、全体を見廻し、危ない場所や、見えない場所に行かないか、危険な行動をしないか見守るよう、心がけている。
- ・学童の合同の日は人数が多くなるため、特に気を付けている。その場合、夕やけランドの子、学童の子と関係なく注意をする様にしている。
- ・子供によっては、注意しても同じようなことをするので繰り返し注意する。

コ 今後、夕やけランドの取り組みをより発展させていくためには
どのような事が重要だと思うか

6. 今後、夕やけランドの取り組みをより発展させるために、どんなことが重要ですか?(複数回答可)

	回答数	延べ回答数に対する割合(A)	回答者数 (n=123) に対する割合(B)
スタッフ、ボランティアの協力・拡充	76	15.8%	61.8%
子どものニーズに合った実施内容の改良	56	11.7%	45.5%
研修の充実と資質向上・情報交換の場づくり	40	8.3%	32.5%
学童事業者との連携強化	20	4.2%	16.3%
場所や開催日の検討	29	6.0%	23.6%
地域の方の理解と協力	20	4.2%	16.3%
学校の理解と協力	89	18.5%	72.4%
保護者の理解と協力	65	13.5%	52.8%
人件費や活動費などの各種経費の確保	48	10.0%	39.0%
施設設備の充実	33	6.9%	26.8%
その他	4	0.8%	3.3%
計	480	100.0%	



【その他の回答（自由記述）】

- ・ 高学年児童の夕やけ利用率向上
- ・ 子ども食堂の実施（校内調理・夕やけランド延長）

サ タやけランドに対するご意見等（自由記述）

- ・ 特別支援学級のお子さんに対してどう対応したら良いか、分からない問題があったりするので、何か良い方法や対策方法などあれば教えて頂きたい。
- ・ 学校との連携協力が大事なので今後も協議会を通じて共有できればと思う。
- ・ 子供の人数が年々減っているせいもあってか、参加者が減少している。今後の開催が心配。
- ・ スタッフの高齢化が心配。若いスタッフが参加してもらえたら子どもたちとの接し方や遊びの内容も変わっていくのだろうと思う。時々でも若い方を派遣するような制度があれば嬉しい。
- ・ 夏休み中は、児童の登下校中も含め熱中症などの心配もあるため、安全のためにやらないほうが良いと思う。
- ・ 夏休み中も開催しても良いと思う。給食無償化もされたので、給食を食べてタやけランドで遊ぶ。夏休み中も会えない友達と会えるし、昼食を準備する保護者(タやけ、学童)の負担も軽減出来る。
- ・ 子供達へいろいろ体験や経験を提供するためには、材料費や諸経費を拡充して欲しい。
- ・ 気になる児童について、学校と密に情報交換したい。
- ・ スタッフは、何かあった時、子供達を守る行動ができる人でなければならない。年齢、定年制もあっていいのかと思う。
- ・ タやけランドスタート当時と子育て環境(法律や条例含む)が変わってきている。自ら情報収集や研修受講を心掛けているが、子育て応援課に提供される情報などタやけ開催に必要と思われるものを差し支えない程度提供をお願いしたい。
- ・ 保護者の方や子供達の要望アンケートにある様な事が、実際の現場で実現可能なのかと思う場合がある。要望を叶える為に、現場だけの負担が増える事がない様にとと思う。
- ・ スタッフのためのアンガーコントロールや遊びのヒントなど、今後も様々なセミナーを開催してほしい。
- ・ もう少し謝金が上がるといい。

第3章 検証・評価の方法

1 検証・評価の方法及び視点

令和6年度実施状況および、アンケート結果をうけて、大まかな動向を検証し、評価を行う。また、必要に応じて、令和3年度のアンケート結果と比較・検証を行う。

評価を行う際は、

- ・保護者・児童が望むニーズに合っているか。
- ・保護者・児童が望む放課後子ども教室の実施形態になっているか。
- ・児童にとって過ごしやすい場所になっているか。
- ・スタッフのニーズに合った事業になっているか。
- ・スタッフの危機管理意識とその対応は正しいか。

以上の点を重視して評価することとする。

2 検証・評価結果

(1) 実施状況について

ア 期間と回数について

週3回実施が4校、週2回実施が1校、週1回実施が11校となっている。週3日は、月、水、金曜日もしくは火、水、金曜日、週2回は月、水曜日。週1回は全校水曜日の実施となっている。水曜日の授業時間が短いため各校水曜日を実施日としている。

期間や回数については、前年度中に学校に実施可能日を調査し決定している。

週の実施回数については、毎年夏に学校及びPTAに実施回数の希望について調査している。

保護者へのアンケートからは、ちょうど良いと回答した割合が約65.2%となっており、半数以上は現状の回数で満足していると思われるが、「事業に対する意見等」からは回数増や夏休みの実施を希望する保護者の声が見られた。開催回数の増加にあたっては、活動場所の確保やスタッフ人員の補強を含め、多くの課題があるが、保護者のニーズに近付けるような実施回数となるよう学校その他関係各所と調整していただきたい。

イ 事業内容について

各校使える場所が限られている中で、安全に出来るプログラムをコーディネーターが考え、実施している。

「夕やけランドは楽しいですか」という質問に対し、86.9%の児童が、楽しいと回答している。前回調査より増加しており、楽しめるプログラムづくりにコーディネーターが努めている成果が出ていると思われる。

また、「夕やけランドで今後どんなことをしたいですか」という質問では工作が前回に引き続き1番多く、球技などのスポーツをしたいが2番目となっていた。自宅ではなかなかできない工作や大人数での球技等、夕やけランドに参加しているからこそ体験できる活動への関心が強いことがわかる。

現状でも楽しいと思う児童が大半を締めているので、おおむねプログラムは充実しているにとらえることもできるが、工作のアイデアを他の夕やけランドと情報交換をしたり、参加児童がみんなで参加できるスポーツやイベントを企画したりして、児童が参加したくなるようなプログラムを提供する努力を続けていくべきである。

なお、スタッフに対する「今後、夕やけランドの取り組みをより発展させるために、どんなことが重要ですか」という質問には、「学校の理解と協力」の回答が72.4%であった。引き続き、学校側と密に連携をとりながら、事業の遂行に取り組んでいただきたい。

ウ スタッフ数について

各校の児童数や、特別な配慮を必要とする児童の数等を鑑みて当日のスタッフ数を決定している。

「子どもたちと接していて、驚いたことや、嫌な思いをしたことがありますか」という質問には54.5%があると回答していた。スタッフには、採用時、現場の状況を見学していただいた上で業務を引き受けていただいている。しかし、児童に対し、想像以上の対応を迫られているのではと捉えることができる。今後も、スタッフが安心して従事できるよう、努めていただきたい。

「活動中に事故などの危険を感じたことはありますか」という質問でも、61.0%のスタッフがあると回答していた。児童が自由に活動する場であるため、常に危険と隣り合わせの現場であり、実際に従事しているスタッフにおいても、その危険を身に染みて感じていると思われる。「再発防止に向けて心がけていること」では“事前の注意喚起”“スタッフ内での情報共有”など各教室で工夫し、危機管理に対応していることがうかがわれ、スタッフ同士の情報共有を積極的に行い、スタッフ全体で対応していく姿勢が見受けられる。今後も引き続きスタッフ同士で協力し合い危機管理を行っていただきたい。

また、「事業に対する意見等」において、保護者からも“怪我が多い”との指摘を受けているところではあるため、安全安心な運営が担保されるよう考慮した人員配置に努めていただきたい。

(2) 学童との連携実施について

ア 実施内容について

実施内容については、通常の夕やけランドに学童が参加し、一緒に自由に遊ぶという形式が一番多く行われている。

しかし、急激に人数が増加するため、安全面を考え、ボールの使用を制限する、出来る遊びを限定するなど安全面に配慮して実施している。また、学校によっては、学期末などにイベントを合同で開催する、絵本の読み聞かせや中学校吹奏楽部による演奏会、マジックショーを行うなど、工夫を凝らしたプログラムも行われている。

今後も夕やけランドと学童が密に連絡を取り合い、安全で多様な体験活動が行えるよう努めていただきたい。

イ 今後の実施に向けて

令和6年度において、各校一体化のペースはまちまちである。この理由としては、学童の行事や学校行事等があるため、必ず毎週の開催はできないこと、またコロナ禍での活動を経て、一体化のノウハウが失われつつある教室が複数存在することがある。全16校中15校で一体化を実施しており、第一小学校に

においては実施がなかったものの、学童との一体化企画に対する協議は別途行っており、相互の活動の都合上やむを得ず中止となったが、全校で一体化実施への協議は行われていた。

また、一体化の開催は夕やけランドが学童を受け入れる形式なので、夕やけランドの運営が安定し、安全を十分に確保できる状態になってから、受け入れ可能となる。そのため、1学期の夕やけランド開始後、しばらくしてから一体化の開催を開始する学校が多数となっている。

一体化において、夕やけランド参加者数を学童児童数が上回る教室は増加傾向にあり、夕やけランドに学童を受け入れる体制に対するスタッフ側の負担が過度にかかる可能性もある。こうした点を踏まえつつ、なるべく多くの一体化の機会を児童に与えられるよう、努めていただきたい。

(3) 学校区協議会について

学童保育所および放課後子ども教室の一体的または連携による事業を実施する際の共通プログラムを企画するには、学童保育所の指導員と放課後子ども教室のコーディネーターが企画段階から連携することが必要である。このため、学校区ごとに、学校関係者も含め、定期的に検討会を開催することとしている。

令和6年度における学校区協議会の開催回数は、学校によってまちまちだが、開催回数が0回となっている第一小学校および吹上小学校は、協議会という形をとらずとも、日頃より学校関係者および学童の指導員とコミュニケーションをとり、情報共有するなど、各校コーディネーターには努めていただいている。

全校で回数にばらつきはあるものの、協議会を通じては、一体化開催時の対応方法や、学校の利用ルール等について意見交換をすることができた。このことから、協議会が、円滑な実施に重要な役割を担っていることが推測される。

「今後、夕やけランドの取り組みをより発展させていくためにはどのような事が重要だと思うか」という質問に対して「学校の理解と協力」と回答した割合が72.4%あった。今後も定期的に協議会を実施することで、密に情報交換できる関係を構築し、学校およ

び学童との良好な関係を継続していただきたい。

3 検証・評価の今後について

今年度、児童、保護者およびスタッフからアンケートを実施し、放課後子ども教室の現場の声を聴いた。実施状況とアンケート結果から児童、保護者、スタッフの運営状況等を検証し、また、必要に応じて、前回のアンケート結果とも比較し、評価を行った。

よりよい放課後子ども教室になるよう、今後も2年に1度実施し、この結果がどのように反映されたか、またニーズにあった実施がされているか等を客観的に判断していく事としたい。

参考資料

青梅市放課後子ども教室推進事業運営委員会設置要綱

令和 5 年 4 月 1 日

実施

1 設置

地域社会において、心豊かで健やかな子どもたちをはぐくむ環境づくりおよび子どもたちの安全で安心な活動拠点作りの推進（以下「放課後子ども教室推進事業」という。）を図るため、青梅市放課後子ども教室推進事業運営委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

2 所掌事項

委員会は、放課後子ども教室推進事業を円滑かつ計画的に実施するため、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- （１） 放課後子ども教室推進事業計画の策定に関すること。
- （２） 放課後子ども教室推進事業の実施にかかる安全管理に関すること。
- （３） 放課後子ども教室推進事業の広報活動に関すること。
- （４） 放課後子ども教室推進事業協力者の人材確保に関すること。
- （５） 放課後子ども教室推進事業の活動プログラムの企画に関すること。
- （６） 放課後子ども教室推進事業実施後の検証・評価に関すること。
- （７） その他放課後子ども教室推進事業の実施に関すること。

3 組織

- （１） 委員会は、次に掲げる者につき、青梅市長（以下「市長」という。）が委嘱または任命する委員 12 人をもって組織する。

ア 子育て応援課長

イ 学務課長

ウ 学識経験者

エ 青梅市立小学校の校長または副校長の代表

オ 青梅市社会教育委員の代表

カ 青梅市青少年委員の代表

キ 民生・児童委員の代表

ク 青梅市自治会連合会の代表

ケ 青梅市立小学校 P T A 連合会の代表

コ 放課後児童クラブの事業者の代表

サ 放課後子ども教室推進事業実施コーディネーターの代表

シ 放課後児童クラブの指導員の代表

(2) 委員会が必要と認める場合には、委員会に専門部会を置くことができる。

4 委員長の職務および代理

(1) 委員会に委員長および副委員長を置く。

(2) 委員長および副委員長は、委員の互選による。

(3) 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

(4) 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときはその職務を代理する。

5 任期

委員の任期は、2年とし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

6 会議

(1) 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が議長となる。

(2) 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、または資料の提出を求めることができる。

7 報告

委員会は、必要に応じて委員会の検討経過および結果を市長に報告する。

8 守秘義務および個人情報保護義務

委員は、職務上知り得た秘密を漏らし、または職務上知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、もしくは不当な目的に使用してはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

9 庶務

委員会の庶務は、子育て応援担当課が処理する。

10 その他

この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

11 実施期日

この要綱は、令和5年4月1日から実施する。

青梅市放課後子ども教室推進事業運営委員会委員名簿

ふりがな 氏名	選出区分
かざま 風間 みどり	学識経験者
ひぐち 樋口 純子	青梅市立小学校の校長または副校長の代表
つるおか 鶴岡 のりこ 則子	青梅市社会教育委員の代表
ひぐち 樋口 あつし 篤史	青梅市青少年委員の代表
いちかわ 市川 かよ 佳代	民生・児童委員の代表
せざき 瀬崎 しょうご 正 吾	青梅市自治会連合会の代表
すだ 須田 くにひこ 邦彦	青梅市立小学校PTA連合会の代表
ささもと 笹本 ただし 忠	放課後児童クラブの事業者の代表
ほしの 星野 あやこ 綾子	放課後子ども教室推進事業実施コーディネーターの 代表
いちかわ 市川 みき	放課後児童クラブの指導員の代表
はまの 濱野 ごう 剛	子育て応援課長
やまだ 山田 ひろゆき 浩之	学務課長

青梅市放課後子ども教室推進事業実施要綱

令和5年4月1日

実施

1 目的

この要綱は、青梅市放課後子ども教室推進事業（以下「事業」という。）の実施について必要な事項を定め、もって心豊かで健やかな子どもたちをはぐくむ環境づくりおよび子どもたちの安全で安心な活動拠点作りの推進に資することを目的とする。

2 実施主体

事業の実施主体は、青梅市（以下「市」という。）とする。ただし、事業の一部を適当と認められる民間教育団体等に委託して行うことができるものとする。

3 事業内容

事業内容は次に掲げるものとする。

- (1) スポーツおよび文化活動
- (2) 地域住民との交流活動
- (3) 学習機会の提供
- (4) 放課後児童クラブとの一体的または連携による活動
- (5) その他必要とする活動

4 実施場所

事業は、市内小学校の余裕教室、校庭、体育館等の施設を利用して実施するものとする。ただし、青梅市長（以下「市長」という。）が認める場合は、社会教育施設その他多様な体験活動や交流活動等を安全・安心に行える場所で実施することができるものとする。

5 対象者

事業の対象者は、事業を実施する各小学校区内に居住する小学生とする。ただし、市長が認める場合は、この限りではない。

6 実施期間

事業は、年間を通じて、放課後に実施するものとする。

7 指導者等

事業を円滑かつ安全・安心に実施するため、次の指導者等を配置する。

- (1) 放課後子ども教室推進事業実施コーディネーター
- (2) 教育活動推進員

(3) 教育活動サポーター

8 指導者等の役割

前項に規定する指導者等の役割は、次に掲げるものとする。

- (1) 放課後子ども教室推進事業実施コーディネーターは、事業の総合的な調整を行うとともに、次に掲げる役割を担うものとする。

- ア 保護者等に対する事業への参加の呼び掛け
- イ 学校および関係機関ならびに事業協力団体との連絡調整
- ウ ボランティア等地域の協力者の確保、登録および配置
- エ 活動プログラムの企画
- オ 放課後児童クラブ指導員との連絡調整
- カ 市との連絡調整

- (2) 教育活動推進員は、学習支援・体験・交流活動等のプログラムを中心に実施するとともに、次に掲げる役割を担うものとする。

- ア 宿題、復習などの指導
- イ 学習方法のアドバイス

- (3) 教育活動サポーターは、プログラムの実施のサポートを行うとともに、次に掲げる役割を担うものとする。

- ア 事業参加者の安全の確保
- イ 事業参加者の確認

9 学校区協議会

放課後子ども教室推進事業と放課後児童健全育成事業の一体的または連携による活動を円滑かつ計画的に行うため、小学校区ごとに学校区協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

- (1) 協議会は、次に掲げる3人をもって組織する。

- ア 放課後子ども教室推進事業実施コーディネーター
- イ 放課後児童クラブ指導員の代表
- ウ 小学校の代表

- (2) 協議会は、次に掲げる事項を所掌する。

- ア 活動計画に関すること。
- イ 活動プログラムの企画に関すること。
- ウ 安全管理に関すること。
- エ その他放課後子ども教室推進事業と放課後児童健全育成事業の実施者間で連携が必要な事項

(3) 協議会は、協議した内容を市長に報告する。

10 その他

この要綱に定めるもののほか、事業の実施について必要な事項は、青梅市放課後子ども教室推進事業運営委員会に諮り、市長が定める。

11 実施期日

この要綱は、令和5年4月1日から実施する。